

# 哺乳類・鳥類

## 哺乳類

8種が記録されています。市の北部に残された樹林や、新川および支流の川岸の草地、畑地、水田が主な生息地です。夜行性なので日中はほとんど見られませんが、<sup>あしあと</sup>足跡や<sup>ふん</sup>糞、えさを食べた跡などで確認できます。また車にはねられた死体が発見されることもあります。



アブラコウモリ

### アブラコウモリ (イエコウモリ)

夜行性で、暗い中、超音波を出してガなどを探知し、空中で捕らえて食べます。冬は雨の当たらない安全な場所で逆さにぶら下がって冬眠します。市内の広い地域で見られます。★表面にも載っています。



ニホンリス

**ニホンリス** 県内での生息数が少なく、用心深いので発見が難しい動物です。八千代ゴルフクラブ周辺のマツ林でマツボックリのかじった跡が確認されました。市北部の台地上の広い林内には生息しているようです。



かじられたアカマツのマツボックリ (右側は完全にかじられたもの)



タヌキ

**タヌキ** 雑食性で小動物から果実、残飯までなんでも食べます。そのため人家の近くにも出没することがあります。市北部の広い範囲で確認されました。足跡は小型のイヌに似ています。



ノウサギ

**ノウサギ** 市北部の台地から低地までの広い範囲で確認されました。草地や畑に直径1cmほどの丸い糞がまとまって落ちていたり、雪が積もった朝に右の写真のような足跡が見られることがあります。



ニホンイタチ

**ニホンイタチ** 肉食で田畑や草地にすみ、ネズミ、鳥、カエル、昆虫などの小動物を食べます。夏はこげ茶色、冬は茶色に毛色が変わります。郊外の道路で車にひかれた死体が発見されることがあります。

## 鳥類

52種が記録されています。新川周辺には川、水田、ヨシ原、斜面林など、野鳥の好む環境が小さいながらも残っています。新川沿いの調査で多くの鳥類が見られます。野鳥には、スズメやムクドリ、キジバトなどのように一年中おなじ地域にすむ留鳥と、夏鳥(ツバメ・ホトトギスなど)、冬鳥(ツグミ・コガモなど)、春と秋に現れる旅鳥(チドリ・シギなど)があります。



カワウ

**カワウ** 留鳥。大型の水鳥ですが、足指の間に膜があり、水にもぐって魚を捕らえるのが得意です。群れて巣を作り、えさ場への往復も群れて飛びます。★表面にも載っています。



コガモ

**コガモ** 冬鳥。日本のカモ類では最も小形。オスは頭部が濃い茶色、眼の周りから首にかけて白い縁取りで濃い緑色の帯が特徴です。メスは頭の天辺が茶かっ色、顔から首はかっ色にはん点、喉から腹部にかけて白色です。オスは「ピリッ、ピリッ」と鳴きます。



カルガモ

**カルガモ** 留鳥。冬鳥が多いカモの仲間ですが、一年中見られます。水辺のヨシ原などでひなを育てる間、母鳥はひなをそろそろ連れて移動します。黒いくちばしの先が黄色いのが特徴です。



ツバメ

**ツバメ** 夏鳥。「燕返し」と言うように、すばやく飛びながら空中で小昆虫などを食べます。家ののき下などに巣を作ってひなを育てますが、同じつがい毎年同じ巣に来ることが観察されています。東南アジア方面で越冬します。★表面にも載っています。

### 調査報告書より

哺乳類：アズマモグラ、アブラコウモリ、ノウサギ、ニホンリス、アカネズミ、カヤネズミ、タヌキ、ニホンイタチ  
 鳥類：カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ゴイサギ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、コガモ、チョウゲンボウ、キジ、バン、オオバン、コチドリ、シロチドリ、ムナグロ、タゲリ、キョウジョシギ、コシャクシギ、ユリカモメ、コアジサシ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ピンズイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、アカハラ、シロハラ、ツグミ、ウグイス ほか